

# ゲップのメタン 生菌剤で30%減

## 牛の飼料に添加

北海道・帯広畜産大学の  
高橋潤一教授らの研究グル  
ープは、フスマや米ぬかの  
中で乳酸菌、酵母などを2  
次培養した生菌剤「BLC  
S」を、飼料に添加して牛  
や羊などに与え、あい気  
(ゲップ)に含まれるメタ  
ンガスを、最大30%程度減  
らす効果を実証した。生菌  
剤の投与が広まれば、乳牛  
が出すメタンガスの発生を  
抑えることができ、地球温  
暖化防止にも貢献できると  
期待が寄せられている。

生菌剤「BLC S」は、日  
本に安登健康(東京都)が、  
牛の胃や腸の安定を促す飼料  
添加剤として開発。高橋教授

## 北海道で 温暖化抑制を期待 北実証

生菌剤のメタンガス抑制効果を  
実証した高橋教授



の研究グループにメタンガス  
抑制効果の実証を依頼した。  
研究グループのメンバーは、  
同大学の高浦一希さん、洪再  
発さん、市川洋征さんと、根  
釧農試乳牛飼養科の糟谷広高  
研究職員。実験は羊とホルス  
タインの乾乳牛3頭で行っ  
た。乳牛にはチモシー主体の  
1番草サイレージを与えた。  
1日20%の投与区と無投与  
の対照区を設置し、2週間試  
した。高橋教授が開発した計  
測装置でメタンガスの発生量  
を調べると、乳牛では投与区  
が無投与区に比べ37・5%も  
少なかった。羊でも効果を確  
認した。高橋教授は生菌剤投  
与の効果として、①栄養分の  
消化率が高まった②ふん中窒  
素損失の減少と窒素蓄積率の  
増加③累積メタン生成量の抑  
制——などを挙げている。

乳牛が出すメタンガスは、  
純度100%換算で、1日当  
たり最大400リットル、ドラム  
缶2本分に相当する。100  
頭ならドラム缶200本分に  
もなり、乳牛の出すメタンガ  
スの抑制は大きな課題になっ  
ている。